

海浜就業で地域環境に貢献



▲流木もなんのその、70代にはみえません！

意識を変えた海浜就業
 八月から始まった海浜海浜浄化業務。十一月までの三ヶ月間、五地域に分かれて、海に捨てられたゴミの収集処理を行う作業です。
 南城市は、周囲が海に囲まれているので、海との生活を切り離すことはできません。夏になると、観光客や若い人で賑わう新原ビーチの海岸は、捨てられるゴミも大量になり、地域の人のとっては、その処理に頭を抱えている現状です。
 会員の城間八重さんと、屋比久静子さん（玉城在住）は、幼い頃から親しんできたその浜辺を、ゴミ袋を片手に楽しく就業に励んでいます。その姿はとて

南城市

シルバー人材センター

もまぶしく、照りつける太陽よりも燦爛と輝いています。新原ビーチは、この夏、海がめの産卵も見られました。
 また、ハマジンチョウの生息地で有名な佐敷地区の富祖崎海岸や兼久海岸一帯を清掃している照喜名キミエさん、糸数敏子さん、屋比久静子さん（知念在住）は、海浜の清掃を始め、あまりにも海が汚れていることに胸を痛めたそうです。三名は「三ヶ月で絶対にきれいにしてみせる」と強く決意し、浄化計画を作成。泥で埋まった海岸へ雨靴をはきアダンの木の奥にたまったゴミも丁寧にとっています。
 海岸沿いを散歩する人や自転車で行き来する人に、「とてもきれいな場所になったね。気持ちいいね。」と声をかけられ、「疲れも吹っ飛んだサー」と、喜んでいました。

海からでたごみのほとんどは生活ごみで、洗濯機等も捨てられていて、残念に思うことばかりです。
 初めて清掃の仕事に携わった中村幸広さんと、東恩納盛敏さんの男性会員コンビは、ゴミの分別がこんなに面倒なことなのかと、奥

会員さん登場



屋比久勲 さん
 (安座真)

水道設備関係の仕事
 を四十年余り携わって
 きて、のんびりと畑仕事
 と趣味の盆栽に人生を
 楽しんでいた屋比久さ
 さん。シルバー人材センタ
 ーが設立してからすぐ
 に地域の仲間とともに
 入会しました。
 これまで仕事の経験
 を生かして、ブロック
 積みや水道関係・更に
 草刈の就業を行いま
 した。
 就業の合間にお茶
 を飲み、お菓子を食べ
 ながら仲間同士でゆ
 っくりしていると、贅沢を
 している気分になる
 そうです。



▲これは燃えるものかな？

さんの苦労が改めてわか
 ったと感謝していました。海
 浜の就業を通して、地域の
 環境を守るのには、一人一人
 の心がけがいかに大切かを感
 じたそうです。
 シルバー会員の懸命な姿
 が、一人一人の心を動かすき
 っかけになればと思います。

仕事百景



剪定ボランティア大好評

剪定のボランティアが、大里庁
 舎の黒木剪定をしたときの写真です。
 メンバーの中には、樹木医の方も
 いて、松の木の剪定期や肥料の与
 え方など、市職員にアドバイスする
 光景もみられました。訪れる市民も
 足を止め、会話の弾む一日となりま
 した。

ニッパチの妙

商いの世界では古くから「ニッパチ」という言葉がある。ニッパチとは二、八のことで、二月、八月は景気が悪い」を意味する商人（あきんど）達の慣習語である。業種による差異や年によって異なることもあるが、多くの業種で二八が該当すると言われている。
 当センターでも八月は受注件数が極端に落ち込んだ。猛暑と旧盆の時期が重なったとは言え、やっぱり当センターも社会通念の「商い」の世界なのだ！と今更ながら納得したものである。
 商いは双方が利を得てこそ成立するものである。当センターが拡大発展を目指すためにも、受発注者双方の利益を上手くマッチングさせることが大切である。（知念）

九月は「敬老の日」を迎え、敬老会等、各地で高齢者の集いが盛大に開催された。
 高齢者が元気に活躍する一方で、二割余りの世帯が単独世帯だといわれている。いつしか孤立化が増える懸念されている。

絆の深い我がシルバーには、いつも笑いがあり、みんなの「ゆんたくはんたく」が続いている。
 孤立化とは無縁のようだ。

(屋我)

通信

第5号

平成20年
 9月25日発行

編集発行
 南城市シルバー
 人材センター
 TEL098-852-6655

会員数
 (9月1日現在)

122人

受注件数
 (8月分)

19件

受注金額
 (8月分)

1,572,805 円

就業人日
 (8月分)

359 人日